

論文内容の要旨

報告番号		氏名	横谷 倫世
Predictive value of tumor-infiltrating lymphocytes for pathological response to neoadjuvant chemotherapy in breast cancer patients with axillary lymph node metastasis.			
乳癌術前化学療法において腋窩リンパ節転移が陰性化するための効果予測因子の検討			

論文内容の要旨

【背景】

乳癌の術前化学療法(NAC)は、乳癌診療において広く用いられている治療法である。特に HER2 陽性乳癌は NAC により、原発巣のみならず腋窩リンパ節においても病理学的完全奏効(Ax-pCR)を認める症例が 40%近く存在するとされている。しかしながら、術前に臨床的腋窩リンパ節転移陽性と診断された患者は、NAC 後に、臨床的リンパ節転移陰性と診断された場合でも、腋窩リンパ節郭清省略を目的としたセンチネルリンパ節生検の実施は推奨されておらず、不必要な腋窩郭清手術を施行されている可能性がある。

【目的】

NAC 後に腋窩リンパ節郭清を省略しうる臨床病理学的予測因子の同定を目的とした。

【対象・方法】

2011年1月から2018年12月の期間に当施設で施行した629例の乳癌手術症例において、術前腋窩リンパ節転移陽性と診断し、NACを行い、その後手術を施行した60例を対象とした。治療前原発巣の腫瘍組織浸潤リンパ球(tumor-infiltrating lymphocytes;TIL)濃度及び Subtype, 臨床病理学的因子と NAC 後の Ax-pCR との関連について検討した。

【結果】

60例中、臨床的リンパ節転移陰性と診断されたものは、40人(66.7%)であったが、Ax-pCRを認めたものは24例(40%)であった。Ax-pCRの有義な予測因子を検討した結果、単変量解析では、ER/PgR陰性乳癌(HR陰性乳癌)、HER2陽性乳癌、TIL高値で有意差を認めたが、多変量解析では、TIL高値のみで有意差を認め(ハザード比 8.153 p=0.003)、独立した予測因子であった。

また、TIL高値は、60症例中25例(41.7%)に認めた。この25例中の11例(44%)がHER2陽性で、11例全例にAx-pCRを認めた。

【結論】

治療前原発腫瘍内のTIL濃度が高く、かつHER2発現が陽性の乳癌に関しては、NAC後に腋窩リンパ節郭清を省略できる可能性が示唆された。